

週刊センターニュース No.298



第298号(2010年2月22日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

〇〇〇 第258回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 3月3日(水) 15時~16時半

会場: 角間キャンパス総合教育1号館6階 E1講義室

※開催曜日・時間・会場が通常と異なりますので、ご注意ください。

テーマ: 学術情報を外に開く新たな仕掛け—Ustream、Twitter、etc…

企画者: 竹本 寛秋 (大学教育開発・支援センター特任助教)

報告者: 竹本 寛秋 (大学教育開発・支援センター特任助教)

概要: ここ数ヶ月、学会、シンポジウムにおいて急速に広がっている動きがある。学会の様様をリアルタイムでインターネットに同時中継し、併せてtwitterと呼ばれるサービスを使って意見の共有を行っていくという形でのイベントデザインである。このような情報の「外部発信」の形は、今後さらに広がる可能性を秘めている。報告者は大学教育開発・支援センターにおいて、授業形態を変革するICT機器の可能性、ICT機器によるFD展開の可能性に深く関心を持って活動してきた。その一年間の活動の成果をふまえつつ、新たなデバイスがどのように学術情報発信の可能性を拡げていくことができるのか、広く意見交換する話題を提供したい。

〇〇〇 ロサンゼルス訪問調査報告 〇〇〇

近年、高等教育において学生による学習の成果(Student Learning Outcomes、以下 SLO) に対する関心が高まってきている。2008年12月に出された中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」においても「学生による学習の成果を重視する観点」について言及されている。そのような中、今回、科研における調査の一環として、学士課程および公共政策専門職大学院課程教育における SLO 関連情報収集のため、2月15日から米国ロサンゼルス周辺の以下の5大学への訪問調査を行った

- ・ University of Southern California (学士課程および公共政策)
- ・ University of La Verne (公共政策)
- ・ California State University, Los Angeles (学士課程)
- ・ University of California, Los Angeles (学士課程)
- ・ California State University, Long Beach (公共政策)

調査の結果、それぞれの大学において SLO を証明するため個性的な取組が行われていることがわかったが、特に以下の3項目については、ほぼ全ての大学で話題に上った。

- rubric
 - 個別の授業ごとに、授業の目標、学生が習得すべき能力が明示された判断基準表である。一般的には、学生がどこまで達成できたかをわかりやすく示すため表形式を取ることが多い。
- capstone
 - 教育プログラム全体修了時またはその途中などで、学生の全般的な能力を見るためのもの。プロジェクト型研究などにより、学習成果を示す成果物を作成する。日本で言う卒業論文、卒業研究に相当する。
- curriculum map
 - 教育プログラムにおける個々の授業の位置づけを明示したもので、科目間の関連性、接続性

など、上記 rubric と組み合わせて用いられる。

これらの用語は、近年、高等教育における新しい概念であるかのように導入、報告がなされてきているが、実際は、日本の大学においても類似の活動はすでに行われてきている。それが、教員個人の頭の中にあったり、学部・学科内での暗黙の了解であったりする点が問題であった。今回の調査を終え、日本の大学教員も、従来行ってきた教育内容・活動に自信を持ち、それらを整理し、わかりやすく社会に示すことで、欧米での目新しい手法を取り入れるだけでなく、日本独自の教育内容・活動に基づく高等教育質保証について、国内外に発信出来るのではないかと思われた。また、日本の大学で行われてきている卒業論文、卒業研究、ゼミレポートなどが SLO を示すにふさわしい成果物であることが確認出来たことも、今回の調査における収穫であった。

最後に、Student Success について少し触れておく。いくつかの大学では、SLO の話に加えてこの Student Success という言葉が聞かれた。これは、在籍率、満足度、就職率等を考慮した考え方であり、正課授業における能力だけでなく、「大学生であること」全体を対象としたものである。この考え方についてもすでに検討され、SLO と合わせて授業、正課外活動、学生支援活動などを複合的に見る形で、今年に入って出された大学設置基準改正諮問¹⁾につながっている。

i) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1289824.htm

(文責 評価システム研究部門 堀井祐介)

○●○ 第5回大学コンソーシアム石川FD研修会開催のご案内 ○●○

テーマ：IR (Institutional Research) と授業評価

主催：大学コンソーシアム石川

日時：平成22年2月26日(金) 午後1時30分～午後3時30分

会場：大学コンソーシアム石川シティカレッジ教室1(金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2階)

趣旨：自己点検・評価のシステム導入を伴う「大学設置基準の大綱化」から20年近くが経過しようとしている。その間、認証評価制度による評価の義務化、FDの努力義務—法的義務化と、教育内容・授業内容・方法の改善は評価とともに進んできた。この流れを象徴するのが、授業評価の普及である。今や、学生アンケートによる授業評価抜きでFDを語るができない。全ての高等教育機関で実施されているからである。しかし、学生による授業評価が授業改善に実際に結びついているのかと問うても、確たる証拠を挙げることはなかなかできない。FD活動の実質化のためには、学生による授業評価におけるアンケート内容や分析手法それ自体を学問的に見直すことが必要である。日本における大学教育に欠けているIR(Institutional Research)の重要性に鑑みて、データ収集を目的とする学生授業アンケートをそもそもどのように作成すれば良いのか、あるいは自由記述欄に書かれた学生の声をどう読み取ればいいのか、社会心理学そして教育学の若手研究者2名から、問題提起と問題解決のための新たなアプローチ方法を提示していただく。授業をどう評価すべきか、について関心をお持ちの方々の積極的な参加を促したい。

プログラム

午後1時30分～40分 挨拶と趣旨説明 青野 透(大学コンソーシアム石川FD専門委員会委員長)

午後1時40分～2時10分 報告1「IRの観点から見た授業評価アンケート作成の注意点」

尾関 美喜(金沢大学大学教育開発・支援センター博士研究員)

午後2時10分～25分 質疑応答

午後2時25分～55分 報告2「テキストマイニングを応用した自由記述に対する分析システムの紹介」

松河 秀哉(大阪大学大学教育実践センター助教)

午後2時55分～3時10分 質疑応答

午後3時10分～30分 テーマ全体についての意見交換